

謎の生物大発見!!



筑波大学附属小学校 1部3年

伊藤 杏樹

2010.8.23

調べようと思ったき、かけ

私のおばあちゃんは、島根県出雲市大社町に住んでいます。近くには出雲大社というとても大きな神社があります。また大社町には、稲佐の浜という神話で有名な海岸があります。



(稲佐の浜にいる私)

私は砂浜で遊んでいたところ、今まで見たこともない不思議な生き物を発見しました。

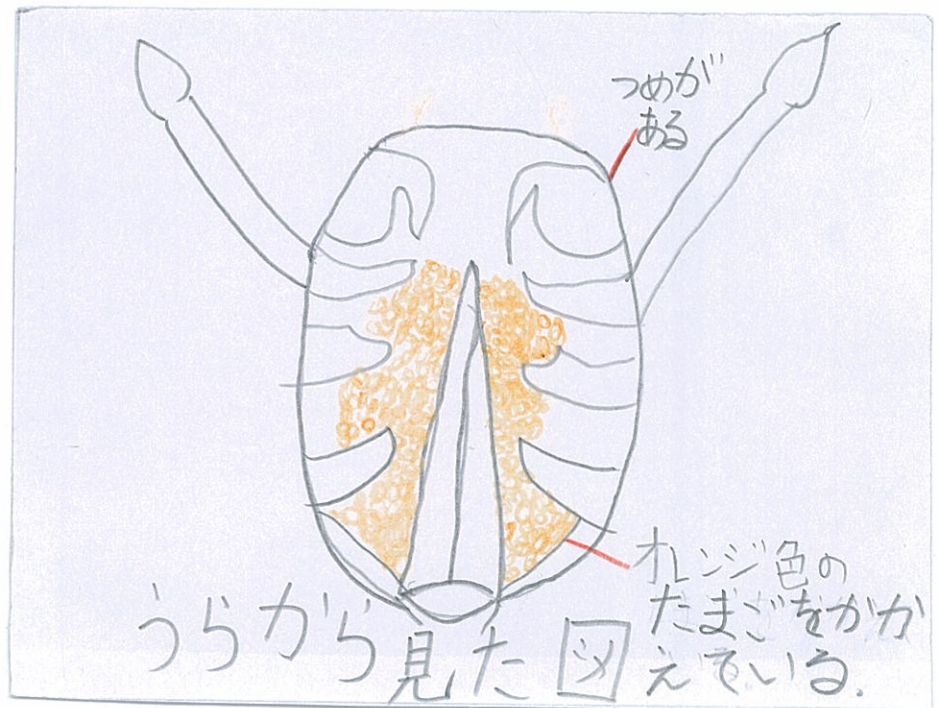
その生き物は体長が1cmほどで、すばしっこくて、すぐに砂の中にもぐろうとしていました。

私は家に帰ってからこの謎の生物について調べてみることにしました。

そして、かんさつして分かった特徴を図にしてみました。



謎の生物のかんさつ



私の予想

私は謎の生物が、エビやカニの仲間だと思ったので、さいしょにエビとカニの違いについて調べてみようと思いました。そしてその謎の生物と比較してみました。

エビとカニの違いについて

- ① エビもカニも、広くは節足動物という、体の多くが節からできていて、足に関節があります。エビやカニ以外にも、クモや昆虫、ムカデも仲間に入っています。
- ② さらに細かく分けるとエビやカニは、甲殻類という仲間に分けられます。そこにはエビやカニ以外に、フジツボやフナムシなど水中に住む生き物が多くいます。
- ③ もっと細かく分けるとエビやカニは十脚目という足が10本ある仲間です。エビやカニ以外ではヤドカリやザリガエがいます。

これらの違いを図にしてみます。

節足動物の仲間

甲殻類の仲間

十脚却目の仲間

たまごを
だかない
グルーゴ

○クルマ
エビ

たまごをだく
グルーゴ

○コエビ
○イセエビ
○ガリガニ
○ヤドカリ
○カニ

○フジツボ

○ミジンコ

○ナムシ

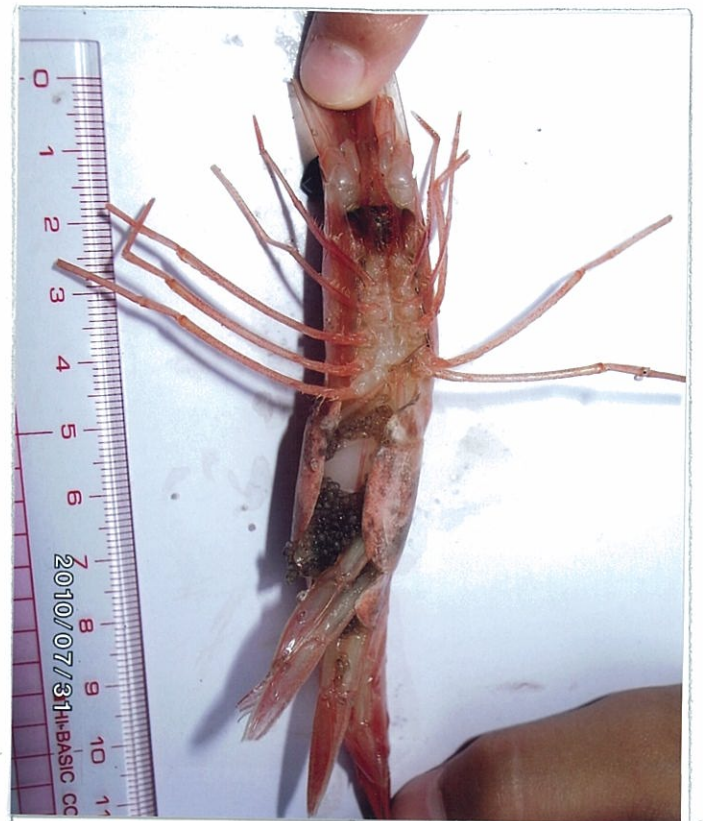
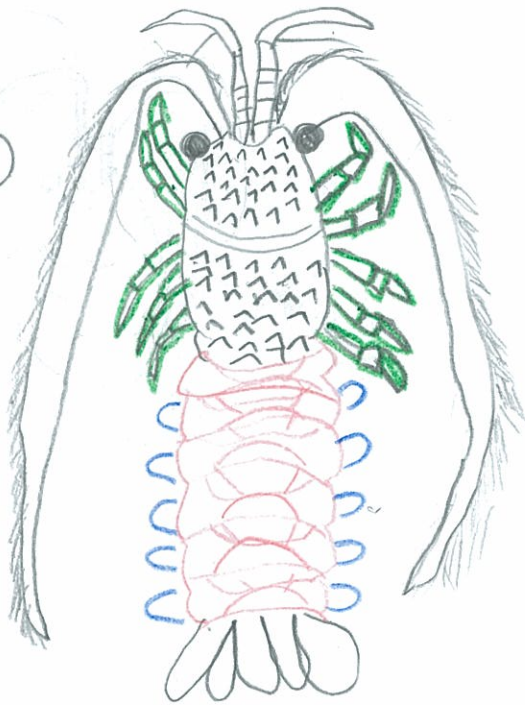
○クモ

○昆虫

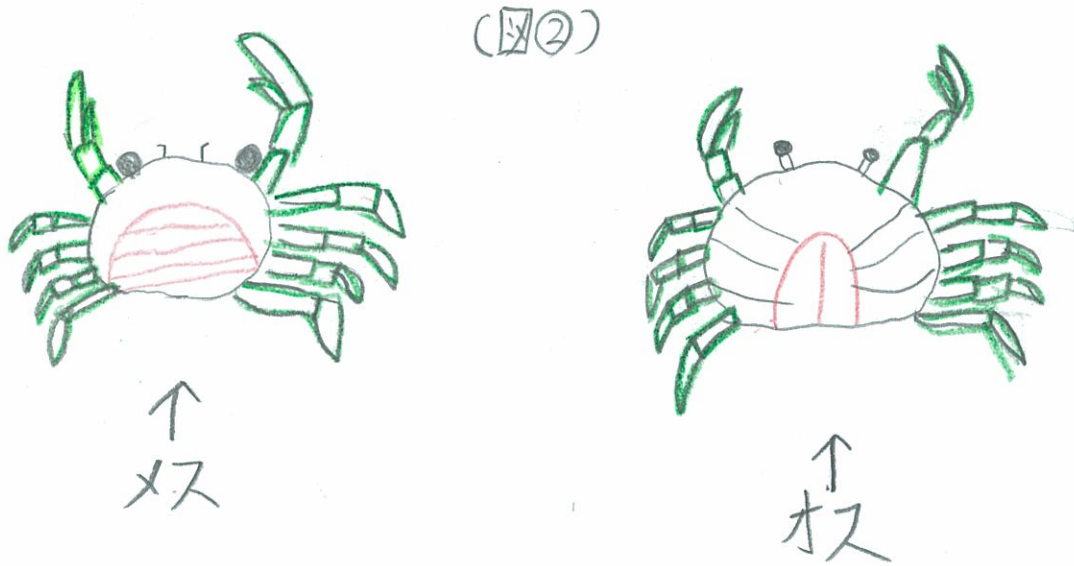
○ムカデ

④ この図のように、エビとカニはかなり近い仲間です。
では、一番の特徴は何かというと腹の形です。
エビの腹は図①のように長く伸びています。

(図①)



⑤ カニの腹は図②のように小さくおりたたんであります。



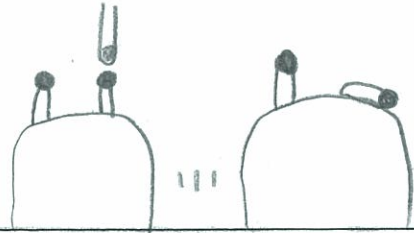
カニのメスはたまごをだくので腹が大きいため、腹の大小でオスとメスがくべっできることが分かりました。

⑥ さらにエビやカニははさみのように見える部分も入れてはさみ足といい、それもあわせるとかたがわで5本計10本あります。それで十脚目というグループに入っていることが分かりました。(図①②の緑色の部分)

エビの腹の部分にある小さな足のようなもの(図①青色の部分)は、腹肢といってまたちがうものです。

謎の生物との比較

次にエビやカニと謎の生物とを比較して、それを表にしてみました。

	工 じ	カ ニ	謎の生物
外見	細長くて腹部がよく発達している。 長いひげ"をもっている。 10本の腹肢を使って泳ぐ。	甲らがかたく、横長で四角い。 腹部が短かく甲らの下側におりたたまれている。	丸いたまご形の甲らがあってにじぐらいの大きさ。 腹部はおりたたまれている。
足の数 (胸脚)	はさみ足も入れて5対(10本)ある。 はさみ足が発達している種類もあるけど、そうでないものもある	はさみ足も入れて5対(10本)ある。 はさみ足が皆発達している。	はさみ足はないかわりに、2番目の足がぼうのように発達している。後足がとても小さいが全部で5対(10本)ある。
たまごの育て方	腹部にたまごだく種類が多いがクルマエビの仲間のようにたまごをたかないものもある。	皆おりたたまれた腹部にたまごをた"く。	腹部にたまごをだいていた。
目の違い	さわってもほとんど動かない。	さわるとおりたたまむ。 	目はさわっても動かない。
泳ぎ方	ふだんは腹肢を使って泳ぐが、いそいでにけ"る時は腹部をき"うそくにおりまげ"て後ろにいと"うする。	胸肢を使って泳ぐ"が工じのように腹部を使っては泳げ"ない。	小さな後ろ足をはげしく動かして後ろ向きにいと"うする。
最大の特徴	腹部は長く発達していて、いと"うするのにもやくにたつ。	腹部は内側におりたたまれている。	腹部はおりたたまれているように見える。なぜなら腹部のまわりにたまごをかかえていたから。

結論

① 謎の生物は、外見や泳ぎ方はいっていますが、たまごは腹部にだいていたのでカニの仲間だと思いました。しかし、図鑑ではエビヤカニの仲間にはのっていませんでした。

私はどうしても、この謎の生物の生体が知りたくて島根県立宍道湖自然館「ゴビウス」に行き、専門の先生に調べてもらうことにしました。



② ゴビウスの桑原先生によると、この謎の生物の正体は、「ハマスナホリガニ」だということになりました。

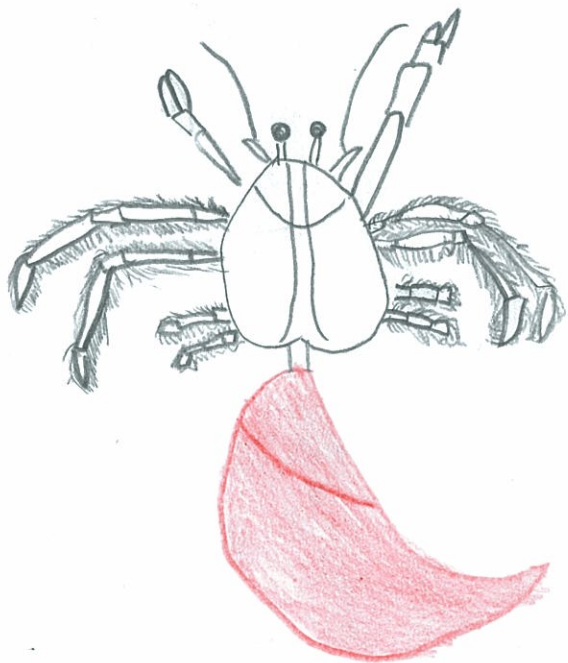
この生物はヤドカリの仲間だということでした。

図鑑で調べたところ「スナホリガニ」がのっていました。



まとめ

ヤドカリの仲間には、図⑤のように腹部を右側に曲げているものが多く、ほとんどの種類が腹部を貝がらに入れてあります。



(図⑤)



「スナホリガニ」は腹部をおりたたんでいて、貝がらには入りません。そのかわりに、背中にたまごカクのかたい甲らがあります。

また、「スナホリガニ」を調べていくうちに、おもしろいことを発見しました。それは今までカニだと思って食べていた、私の大好物の「タラバガニ」は、実はヤドカリの仲間だということが分かったのです。

「タラバガニ」は、胸脚が4対(8本)しかないように見えるので、カニとは異なっていますが、小さな胸脚が甲らの中にかくれているそうです。

今度「タラバガニ」を食べるときにその小さな胸脚をたしかめて見ようと思います。

「スナホリガニ」は、日本では3種類いて世界中でも25種類しか発見されてない、ちょっとめずらしい生物だそうです。

最後に

しかも、この生物は島根県では今まで採集記録がなく、私が島根県で初の「ハマスナホリガニ」の発見者ということになり、現在、ゴビウスの先生にしんせいしてもらう予定です。

私はこれからも、いろいろな謎の生物を探して新発見したいです。



また新しい「ハマスナホリガニ」を見つけました。